

発生国における CWD の人へのリスクに関する見解

1. 米国疾病予防管理センター (CDC)

(参照 <http://www.cdc.gov/prions/cwd/transmission.html>)

これまで、いくつかの疫学的研究が、CWD は人に伝達していない証拠を示している。さらに、サーベイランスの結果、コロラド州やワイオミング州において CJD の発生が増加しているということは示されていない。

CWD に感染している可能性のあるシカやエルクの肉への曝露リスクが高い人の集団において、人のプリオン病を確認することに焦点をおいた研究が行われてきた。CWD への曝露から発症までには長期間を要するため、仮にあったとすると CWD の人へのリスクがどういったものかについて言及するには、長年のフォローアップが必要である。

2. カナダ食品検査庁 (CFIA)

(参照 <http://www.inspection.gc.ca/animals/terrestrial-animals/diseases/reportable/cwd/eng/1330143462380/1330143991594>)

現在のところ、シカやエルクにおける CWD の人への伝達を示唆する科学的証拠はない (2012 年に公表したファクトシートより引用)。

3. ノルウェー食品安全科学委員会 (VKM)

(参照 <http://www.vkm.no/>)

現在、CWD プリオンと人のプリオン病との関連を示す疫学的知見はない。

CWD の人への伝達の例は知られておらず、バイオアッセイ及び *in vitro* における実験データは種間バリアの存在を示しているが、伝達の可能性を除外することはできない。

CWD プリオンの可塑性及びノルウェーで分離された株の伝達性に関するデータの不足による不確実性を考慮しても、CWD の人獣共通感染症としてのリスクは極めて低いと考える。(2016 年に公表した CWD に関する意見書より引用)